



THE KAHALA

HOTEL & RESORT

YOKOHAMA

第2回

ハワイの誇りと豪華な歴史に彩られる 「ザ・カハラ」、生誕のストーリー

いよいよ開業まで7カ月となった「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」。
半世紀前にハワイ・オアフ島に創業した原点の歩みを振り返り、次代を紐解きましょう。

「ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜」のルーツを辿れば、ハワイにある「ザ・カハラ」の前身、「カハラヒルトン」が開業した1964年までさかのぼる。それは、ハワイの観光史に刻まれるラグジュアリーホテルの誕生だった。

その後「カハラマンダリン」と名前を変え、さらに現在の名称「ザ・カハラ」になり、2014年から「リゾートトラスト」の所有運営となって今に至るが、一貫して「カハラ」という言葉は、ホテルの呼称として人々から親しまれてきた。

名称の由来となった土地は、古来、「ワイアラエ、カハラ」と呼ばれる王族の聖地だった。

ハワイ王国がカメハメハ1世によって統一されたのは1810年のことだったが、そこに至るまで、島々を征服する闘いの日々があった。

ハワイ島北部に生まれたカメハメハが、オアフ島にやってきたのが1795年のこと。その上陸地点が、ワイアラエ、カハラだったと言われる。ここは、王国誕生につながる歴史的な場所なのだ。

「カハラヒルトン」が開業した当時、「ワイアラエ」は綴りが難しいことから「カハラ」だけが名称として選ばれた。日本人の耳にも馴染みやすいその優雅な響きは、以来、ホテルの名声と共に、オアフ島有数の高級住宅街の名称としても、憧れと共に人々に親しまれてゆくことになる。

「カハラ」には、ほかにも土地にちなむ意味がある。

ひとつは、漁師の村でもあったこの海岸でよく捕れた魚の名前。ハワイ語でヒラマサを意味する。そしてもうひとつが、周辺に多かったハラ (Hara) の木である。古くからハワイアンは、ハラの花を愛の呪術に用いてきた。カハラとは、また愛の花を意味する言葉でもある。

王族の聖地を意味するものであり、海の豊穡と愛の象徴にもつながる「カハラ」とは、まさに伝説のホテルにふさわしい名前であったのだ。

ワイキキから車で約10分、ダイヤモンドヘッドをはさんだ反対側の麓にカハラは位置する。ワイキキもまた、古くは王族の水浴場だった。心地よい風が通り抜け、晴天率が高い。その自然条件は



1964年、創業当時の「カハラヒルトン」(現「ザ・カハラ ホテル&リゾート」)。モダンさを前面に打ち出した外観が人々を圧倒した。


THE KAHALA
HOTEL & RESORT
YOKOHAMA

同じで、閑静な環境にあるのがカハラになる。

戦後間もない頃まで、後に「カハラ」となるホテル用地は、カウアイ島のサトウキビ農場主の所有だったが、当初は、その開発計画に興味を示すものは誰もいなかった。そこに名乗りを上げたのが、不動産投資家のチャーリー・ピーチだった。

彼は、友人のホテル王、コンラッド・ヒルトンに共同投資を呼びかけ、プロジェクトがスタートした。設計を手がけたのは、カルフォルニア州ロングビーチで、スタイリッシュで住みやすいモダンイズム建築の住宅で知られていた建築家、エドワード・キリングワースとブラ

ディ・スミスだ。

9m余りの天井高がある吹き抜けのロビーにベネチア

ンガラスのシャンデリアがきらめく。デザインだけでなく、全館冷房完備といった施設面でのモダンさも兼ね備え、ゴージャスにして開放的。まさにこれまでにないハワイのホテルの誕生だった。彼らは、後に「ハレクラニ」「カバルアベイ」「マウナラニベイ」といった、80年代を代表するハワイのラグジュアリーホテルを手がけることになる。「カハラヒルトン」は、建築においても、ハワイのラグジュアリーホテルの嚆矢だった。

ちなみに彼らの日本における代表作としては「ヒ

ルトン東京ベイ」があるのだが、ここを舞台としたドラマ「HOTEL」（石ノ森章太郎原作）は、その後にカハラでも撮影が行われている。

そして1964年、ハワイがアメリカで50番目に州になって5年目の年、ついに伝説のホテルが開業した。1月22日、ハワイアン人の聖職者による厳かな落成式に続き、翌日はビーチで華やかなグラント・オープニングのディナーが催された。招かれたゲストは「一生に一度は訪れたいホテル」「完璧に優雅なおとぎの国」と賞賛した。

この時、レジデンス・マネージャーを務めていたのが、程なくして、34歳の若さで2人目の総支配人に抜擢されるロバート・バーンズである。

ホテルに魂を吹き込み、伝説を築き上げたのは、まさに、彼の存在だったと言ってもいい。後に「アマンリゾート」の創業者、エイドリアン・ゼッカ等と共に「リージェントホテル」を立ち上げ、アジア太平洋のホスピタリティ業界を牽引した男の原点が「カハラヒルトン」だったのだ。

さらに、偶然の巡り合わせもあった。1964年、ヒルトンは、海外ホテルをヒルトンインターナショナルとして分離。だが「カハラヒルトン」は、米国内ホテルで唯一、ヒルトンインターナシヨナ

米国有数のリゾート地に
モダンイズムの風をもたらして



ホテルの代名詞とも言える「ドルフィン・ラグーン」(次ページ)。客室の眼前に遊ぶイルカに、これまでも多くのゲストたちが癒されてきた。

ルの傘下となった。このことにより、全米に200軒余りあったヒルトンとは一線を画するホテルで、自由に辣腕を振るうことができたのである。開業時、ほとんどが白人であったスタッフも日系人などローカルを多く雇い入れ、バーンズは地元との連携を強めてゆく。ハワイ大学の旅行産業マネジメントスクール設立にも関与した。

ハワイ大学のイースト・ウエスト・センターも関わりの深かったところのひ

とつだ。1969年、ノーベル文学賞を受賞した作家川端康成が、同センターで教

鞭をとるためハワイを訪れた時に滞在したのも「カハラヒルトン」だった。

バーンズは後に、「最も忘れがたい日本人ゲスト」として、川端の名前を挙げている。

川端が滞在したのは、庭にあった日本式建築のバンガローだったが、その場所は、カハラのアイコンともいえる場所に面していた。

ドルフィン・ラグーンである。1965年から66年にかけて、シーライフパークよりイルカをおいてほしいと依頼されたのがきっかけで、以来、世界的にも珍しい、イルカのいるホテルになった。2000年以降は、「ドルフィン・クエスト」というイルカと触れ合えるプログラムも実施している。1967年には、ハワイアン歌手、ダニー・カレイキニのショーが始まる。「ミスター・アロハ」と

も呼ばれたエンターテイナーのショーは、ギネスに認定されるほどのロングランとなり、これもまた、カハラを象徴するものになった。

1969年には、アメリカのTVドラマシリーズ「ハワイファイブオー」が始まり、ホテルは、その舞台となり、多くの出演者が宿泊した。

「カハラヒルトン」の創成期を支えたロバート・バーンズは1970年、香港に去ってしまったが、

ホテルの名声は、ますますゆるぎないものになってゆく。それを象徴するのが、ゲストに名前を連ねたセレ

多くのセレブリティたちを 惹きつけて止まない魅力とは？

ブリティたちだ。

ロッド・スチュワートやサミー・デAVIS・ジュニア、ジャック・ニクラウス、ジョン・ウェインなど、時代を象徴する華やかなスターたちはもちろん、英国のエリザベス女王など、各国の王族も多く訪れた。

1975年には、昭和天皇后両陛下をお迎えしたほか、上皇上皇后両陛下は1994年、2008年と2回も宿泊されている。日本との縁もまた深い。

「ザ・カハラ」は昔も今も、ワイキキの喧噪を離れた人々に愛される本物のラグジュアリーホテルであり続けている。その系譜として「ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜」は誕生の時を迎える。

○文：山口由美 文責：ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜



2020年6月、横浜に産声を上げる「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」の豪華なスイートルーム、そして外観。